

1 学校名

気仙沼市立中井小学校

2 活動テーマ名

豊かな海を未来へ

3 実践の概要・ねらい

本校は、三陸復興国立公園唐桑半島の中央に位置し、自然環境に恵まれている。校舎は海岸から少し離れた高台にあり、校舎からは太平洋を眺望することができる。

本校では、第5学年児童が、総合的な学習の時間において、地域の海を題材にした学習活動を行っている。特色としては、学区にある公民館と連携した「ふるさと学習会」がある。この活動は、自分たちの地域を見つめ直し、地域の豊かな自然や伝統文化を理解するよい学習の機会になっている。

第5学年児童には、自分たちが生活している地域の自然環境や産業などについて興味をもたせ、様々な体験活動や調べ学習を通して、海・河川・森林の環境が大きく関わっていることを実感的に理解させたい。また、地域が抱える様々な環境問題を把握し、問題を解決するために自分たちができることを考え、実践しようとする態度を育てたい。

4 実践計画

(1) 対象学年：第5学年

(2) 実施教科：総合的な学習の時間

(3) テーマ・概要・活動計画，教科等との関連

テーマ	概要・活動計画	教科等との関連
浜辺の散策・清掃 (5月) 【海を知る学習】 【海を守る学習】	学校近くの海岸の様子を調べさせ、環境問題が身近な所でも起きていることを実感させる。プラスチックと環境問題との関連付けを図り、自分たちの生活に深く関わっていることを理解させる。また、浜清掃を通して、地域の環境を守ろうとする意識を高める。	社会 道徳
海辺の生物調査 (7月) 【海を知る学習】 【海に親しむ学習】	「森は海の恋人運動」を行っている畠山重篤さんから、舞根湾の様子やプランクトン、食物連鎖について学ぶ。また、牡蠣の養殖筏などを見学することを通して、唐桑の海は、なぜ養殖業に適しているのかを森と海との関わりを1つの視点として考えさせる。	理科 社会
沢遊び体験 (9月) 【海を守る学習】	野外活動の沢遊びにおいて水質調査を行い、川の上流と下流の水質の違いを具体的に捉えさる。また、水質の違いを比較することを通して、森と海のつながりを意識させる。	理科 社会
鮭の調理教室 (11月) 【海に親しむ学習】	網起こし体験と関連させ、鮭をさばいたり、調理したりする活動を通して、海の恵みや食の安心・安全を実感させる。	家庭科 道徳
網起こし体験 (11月) 【海を利用する学習】	地域の主幹産業である漁業を体験することを通して、水産業への理解を深めるとともに、郷土を大切にしようとする態度を育む。	社会 道徳

(4) 実践の評価

○自分の取り巻く環境への興味関心が高まり、海との調和や共存を考えることができたか。

【本質を見抜く力の育成】

○海の恩恵を実感し、海との関わりに夢と希望をもつことができたか。

【道を切り拓く力の育成】

○「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」という学習サイクルを意識して学習を進めることで、海がもつ大きな可能性に気付き、課題解決に向けて主体的に取り組むことができたか。

【つなぐ力の育成】

5 今年度の実践

(1) 計画からの追加・変更点

1年間の学習を振り返り、学びを確かなものとするために、次の活動を追加した。

リーフレットの制作 (2月)	1年間の学習を通して学んだことや感じたこと、考えたことをリーフレットにまとめる活動を通して、学びを確かなものとし、自然を守る取組を実践していこうとする態度を育む。	国語 図工
-------------------	---	----------

(2) 実践の成果

○浜辺の散策・清掃【5月】

遠くからだときれいに見えた海岸だったが、実際にその場に行ってみると、ペットボトルやプラスチック、発泡スチロール、缶など、生活に関わるごみがたくさん落ちていた。児童は、環境問題が身近な所でも起きていることを実感するとともに、環境問題が自分たちの生活と深く関わっていることを理解することができた。また、ごみの中にプラスチック製品が多かったことから「マイクロプラスチック」に興味をもち、調べ学習に取り組んだ。このままだと20年で今より10倍増えることが分かり、ごみを減らす取組の必要性に気付くことができた。



○海辺の生物調査「森・川・海のかかわり」【7月】

地元唐桑にある森里海研究所の協力の下、海辺にいる生物等を調査したり、「森は海の恋人」運動に取り組んでいる畠山重篤さんから「森・川・海のかかわり」について学んだりした。児童は、この学習を通して、「豊かな森が栄養豊富な水を川や海に共有し、牡蠣などの養殖業に必要なプランクトンを増やしていること」や「プランクトンが海の世界連鎖を活発にして豊かな漁場を生み出すこと」が分かった。そして、畠山重篤さんたちが行っている「森は海の恋人」運動の意義にも気付くことができた。



○沢遊び体験【9月】

野外活動の沢遊び体験において、水質調査を行うことで、豊かな森林がきれいな水を生み出していることや海と森を川が結んでいることを実感することができた。また、これまでの活動と結び付けて考えさせたことで、人間が様々な環境問題を引き起こしていることを再認識する機会となった。



○鮭の調理体験（親子料理教室）【11月】

地元の料理店に協力していただき、網起こし体験と関連させて鮭の調理体験を行った。実際に鮭をさばいたり、鮭を使った料理を作ったりする体験を通して、自分たちが生きるために命をいただいていることや、漁師だけでなく調理をする人など、多くの人に関わることで海の恵みをいただくことができることを実感させることができた。また、保護者にも参加を呼び掛けたことが、魚食推進や食の安心・安全への関心を高める機会になった。



○網起こし体験【11月】

地元の網元に協力していただき、漁船で実際に海に出て「網起こし体験」を行った。この体験を通して、児童は、定置網の仕組みを理解したり、豊かな海の恵みを実感したりすることができた。また、地域の主幹産業である水産業への興味関心を高め、郷土を大切にしようとする気持ちを高める機会にもなった。



○リーフレットの制作【2月】

地元のデザイナーの方を講師に迎え、リーフレット作りに取り組んだ。まず、児童が作成した下書きを基に、全体の構成についてアドバイスをいただいた。その後、リーフレットに挿入する児童の絵やタイトル文字などをタブレットに取り込み、パソコン上で着色を行った。学びを確かなものにするとともに、1年間の活動に対して達成感を味わわせることができた。



(3) 次年度への課題

今年度は、第5学年が海洋教育に取り組んだ。児童は、様々な体験活動や調べ学習を通して、身近で起きている環境問題に対する興味・関心を高めることができた。また、持続可能な社会の実現に向けて、自然を大切にするとともに、「マイバックを使う」などの取組を自分たちが行ったり、他の人に呼び掛けたりしなければならないという意識をもつことができた。ただし、本校の海洋教育の実践が第5学年に偏りがちだったことが課題として挙げられる。

次年度は、海洋教育で得られる効果及び成果を他学年にも広げられるように、全学年で海洋教育を実践したい。そのために、年間指導計画の見直しと改善を図り、6年間を見通して系統立てて指導できるようにしたい。また、学習の成果をより多くの人に発信できるように、学年ごとに成果物を制作したり、発表の機会を設定したりするなど、環境整備に努めたい。

6 主な連携機関及び内容

第5学年で海洋教育を推進するにあたって協力していただいた方々は、次のとおりである。

内容【実施時期】	連携・協力機関
海辺の生物調査【7月】	中井公民館，NPO法人「森は海の恋人」，森里海研究所
沢遊び体験【9月】	いちのせき健康の森職員
鮭の調理体験【11月】	中井公民館，食楽「まるさん」（地元の料理店）
網起こし体験【11月】	中井公民館，株式会社「八幡水産」（地元の網元）
リーフレット制作【2月】	Pensea Next Switxh（地元のデザイナー），まるオフィス

5年生「豊かな海を未来へ」

【実践のねらい】

自分たちが生活している地域の自然環境や産業などについて興味をもたせ、様々な体験活動や調べ学習を通して、海・河川・森林の環境が大きく関わっていることを実感的に理解させる。また、地域が抱える環境問題を解決し、豊かな海を未来へ残していくために、自分たちにできることを考えて実践しようとする態度を育てる。

○時数 4月～3月 70時間（総合的な学習の時間70）

○関連 理科，社会科，家庭科，国語科，道徳

○目標 (1) 自分の取り巻く環境への興味関心を高め、海との調和や共存を考えることができる。

(2) 海の恩恵を実感し、海との関わりに夢と希望をもつことができる。

(3) 「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」という学習サイクルを意識して学習を進めることで、海がもつ大きな可能性に気づき、課題解決に向けて主体的に取り組むことができたか。

【主な連携機関と内容】

- ・中井公民館：ふるさと学習会
- ・NPO法人「森は海の恋人」：海辺の生物調査
- ・いちのせき健康の森：沢遊び体験（水質調査）
- ・食楽「まるさん」：鮭の調理教室
- ・株式会社「八幡水産」：網起こし体験
- ・pensea Next Switxh：リーフレットの制作

